

生育不良のほ場では早急に追肥を！

昨年12月～本年1月にかけて、暖冬傾向が続いています。これに伴って、大麦の生育が早まり、一部の圃場では、葉の黄化などの生育不良が見られます。生育回復のため、早急に追肥を施用して下さい。



追肥が必要な圃場の様子



追肥が必要なほ場の株

ポイント

- ①茎が立っている
- ②上位3～4葉が黄化している

1. 1月中の追肥について

①茎立期になっており、②上位3～4葉が黄化しているほ場については、栄養状態を改善するため、早急に窒素成分で1kg/10aの追肥を施用しましょう。

追肥時期	肥料名	10a 当たり施用量
早急に (遅くとも1月中下旬までに)	硫 安	5kg (窒素：1kg)

※詳細は営農指導員までお問い合わせください

2. 越冬後追肥(2月)について

現在の気象状況からすると、分施肥体系、基肥一発体系のいずれとも原則追肥が必要となります。施用時期、施用量については、大麦だより（第3号）でご案内します。

3. 排水溝の点検について

降雨によって排水溝が崩れているほ場が多数あります。

排水溝を点検し、連結等の補修作業を行い、停滞水を排除して茎数確保又は増加に努めましょう。特に、播種時期が遅くなったほ場では、排水対策を徹底し、生育量の確保に努めましょう！